

令和4年度 学校経営報告書（自己評価）

|      |   |     |          |     |       |
|------|---|-----|----------|-----|-------|
| 学校番号 | 8 | 学校名 | 沼津特別支援学校 | 校長名 | 青木 暁乃 |
|------|---|-----|----------|-----|-------|

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

|        | 取組目標                     | 成果目標  | 達成状況  | 評価 | 成果と課題  |
|--------|--------------------------|---|---|----|--|
| 安<br>全 | 児童生徒の命と人権を守る取組の推進        | ・各自、人権にかかわる取組み目標を設定し、目標を「達成できた」と答える教職員100%<br>(生徒)      | 前期末のチェックシートの集計で低かった項目を啓蒙ポスター等で周知を行った。<br>「達成できた」98%                         | B  | チェックシート集計から全体で取り組む重点を策定する。年度当初の個人目標への意識を持続する策を講じる。 |
|        |                          | ・防災マニュアルを意識して防災教育を「実施できた」と答える教員90%以上<br>(防災)            | 年度初めにマニュアルの説明会を開いて共通理解を図り、訓練の種類毎に掲示板でマニュアルのポイントを伝えた。<br>「実施できた」100%         | A  | コロナ対応のため、全校での垂直避難や、外部講師による煙体験、不審者対応訓練が実施できていない。    |
|        |                          | ・アレルギー、医療的ケアに関する事故0件<br>(保健)                            | 毎月アレルギー表を読み合わせ給食安全に提供できるようにした。事故0件  | B  | 対応の確認が余裕を持ってできるよう手順を検討する。                          |
|        |                          | ・緊急体制訓練の実施<br>各学部2回<br>(保健)                             | 日程を学部間で調整し救命救急法講習会や緊急対応訓練を実施した。緊急体制訓練各学部2回実施                                |    | ファイルの場所、記入方法、使用方法を周知し、動画を活用して訓練を行う。                |
|        |                          | ・避難経路となる廊下に、防災上問題となる保管物品0件<br>(総務)                      | 安全点検表にチェック項目を設けて毎月点検を行った。実習助手と連携して物品整理や校内美化に努めた。                            | B  | 職員作業を計画的に実施するとともに、ごみの分別について積極的に呼び掛ける。              |
|        |                          | ・体育施設での重大事故0件、体育施設、備品安全点検実施週1回<br>(体育)                  | 毎週末清掃時に体育施設の安全点検(運動場・体育館)を行った。安全点検毎週実施、重大事故0件                               | A  | 課外の教員にも体育施設の管理について意識し取り組めるよう呼びかけていく。               |
| 専<br>門 | 入学から卒業後までのつながりを意識した指導の充実 | ・年間指導計画に関する、「12年間のつながり検討会」を受けて改善が図れたと答える教員90%以上<br>(教務) | 他の学年学部を意識した系統性のある授業か見直す研修(12年間のつながり検討会)を実施し、各学部の年間指導計画を1フォルダにまとめた。改善が図れた89% | B  | 各学部の年間指導計画を確認しやすくするための共通フォルダの校内での周知をさらに徹底する。       |
|        |                          | ・「教員間で話し合って策定し、目標や評価について保護者と共有できた」と答える教員90%以上<br>(自立)   | 県の標準様式等を踏まえ、より保護者や教員にとって分かりやすく使いやすいものとなるように、書式の検討を行った。<br>「共有できた」100%       | B  | 書式の検討が進んだが、学部間で共通化したマニュアルの活用について呼び掛けを増やしたい。        |

様式第3号

|     |                                  |   |  |   |   |
|-----|----------------------------------|---|--|---|---|
|     |                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>研究授業または公開研究会を通して、児童生徒が成長を実感できるための支援を考えたことができた教員 90%以上 (研修)</li> </ul>      | 目標設定から学習評価までの一連の流れを体系化した授業づくりのパッケージを使い、資質・能力の伸長を図る学校研修を推進した。<br>「成長を実感できる支援を考えたことができた」100% | B | 書式の煩雑さを改善し、取組の定着を図る。全員での授業公開や中心授業方式など形態の選択をする。        |
|     |                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>アプリやICT機器を活用した授業を実施し、その内容を職員会議で情報共有 各学部年1回 (情報)</li> </ul>                 | ICT機器の学習支援やアプリの紹介をするともに、授業でのICT機器の使用方法を公開し情報共有を図った。<br>職員会議での情報共有1回 各学部1回                  | A | 校内でのアプリ利用申請のシステム構築を進める。1人1アカウントの取得と活用体制を整備する。         |
|     |                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>外部講師を招いた授業やスポーツや芸術の実演に触れる機会年1回以上 (学部)</li> </ul>                           | 小学部1回(東レアローズ体験)<br>中学部2回(アスルクラロサッカー教室・書道家実演・交流)<br>高等部1回(アフリカ民族楽器)                         | A | 感染症対策をしながら外部人材や地域資源を活用した自然、文化、スポーツの体験的学習を実施できた。       |
| 連携  | 地域や関係機関とのつながりを大切にしたい切れない指導と支援の充実 | <ul style="list-style-type: none"> <li>共同学習の方法(直接・間接)を工夫し、学年1回以上</li> <li>交流校との連携を図り、希望者の実施 90%以上 (学部)</li> </ul> | (共同学習)<br>小学部各学年2~4回<br>中学部7回<br>高等部各学年1回<br>(交流希望者の実施)<br>小学部 95%、中学部 100%                | A | 学校間交流や交流せ貴校との交流について、意義や成果を相手校と共有できるための協議や事前学習を充実させたい。 |
|     |                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>学校だより年6回発行</li> <li>沼特ギャラリー(HP上での作品展示)年3回以上更新 (総務)</li> </ul>              | 学校だより発行 年6回<br>沼特ギャラリーの更新年3回   | A | 作品を計画的に集める。校外での作品展示状況について、様子を伝える広報をする。                |
|     |                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>月間のホームページ閲覧者数を児童生徒数以上 (情報)</li> </ul>                                      | 計画的なホームページの更新を推奨し、支援した。<br>月間閲覧数 平均1,350人  | A | 年度当初に肖像権等の確認業務をスムーズに実施する。                             |
|     |                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>校内外における、支援が必要な生徒に対する支援会議の実施と対応 100% (地域・進路)</li> </ul>                     | 会議の必要が生じたときには、その都度、的確に対応できた。<br>支援会議の実施・対応 100%  | A | 学区内の特別支援学級や域内の高等学校等との連携を深めたい。                         |
|     |                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>「保護者や関係機関と情報共有ができた」と答える、支援会議に参加した教員 90% (進路)</li> </ul>                    | 支援会議に参加した教員と確実に情報の共有ができた。<br>「情報共有ができた」100%  | A | 進路説明会・学習会の開催方法や内容を検討し、保護者への情報提供を充実させる。                |
| チーム | 働きがいのある学校にするための業務改善の推進           | <ul style="list-style-type: none"> <li>会議の焦点化に努めるとともに、「深い話をすることができた」と答える教職員 90%以上 (業務改善)</li> </ul>               | 学年主任、分掌課長を中心に、焦点化や深い話し合いを意識した会議を推進した。<br>「深い話ができた」83%                                      | B | 限られた時間の中での会議の持ち方について一層工夫しながら、焦点化、深まりを追究し、働きがいに繋げたい。   |
|     |                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>教職員への情報伝達 100% (事務)</li> </ul>   | 工事や修繕の工程をはじめ、会計・給与などの事務関係の情報を発信できた。  | A | 引き続き迅速な情報提供により、業務の滞りない実施に寄与する。                        |